

人口減少時代

今年3月、総務省が、2002年10月1日現在の日本の人口を発表しました。総人口は1億2743万人で、前年の2001年に比べ、14万5千人の増加、増加率は0.11%だったということです。

実は、平成14年に、厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所が、2000年の国勢調査をベースとして日本の将来人口推計を発表していますが、その中で、2002年人口は1億2733万人としていました。今回の総務省の数値とほぼ一致しています。

その人口問題研の推計で、日本の人口は、来年、1億2774万人でピークを迎え、その後、減少期に入る、と予測しています。そして2025年には1億2114万人、2050年には1億59万人まで減少する、と推計しています。さらに今から100年後の2100年、日本の人口は6414万人、つまり半分にまで減ってしまうということです。

これらの推計は、政府機関のものですが、実は、民間の専門研究機関である日本大学の人口問題研究所は、さらに厳しく、日本の人口のピークは今年、来年からは減少期に入る、そして100年後の日本人口は3500万人になると推計しているそうです。100年後、人口は4分の1にまで減ってしまう、というのですね。日本の過去の人口をみてみますと、幕末から明治の始めにかけては3200万人前後だったようですから、日大の推計は120年前の江戸時代並みの人口にまで戻ってしまう、と予測しているわけです。

日本の人口は、今から1600年（慶長5年）、関が原合戦があった年ですが、1200万人ぐらいだったそうです。1603年（慶長8年）、徳川家康が江戸に幕府を開き、その後260年にわたって、日本は平和な時代が続きますが、この間に人口は増加して行きます。江戸開府から120年後の1720年、3128万人、人口は2.5倍になりました。

この江戸時代の前半120年間に、米の収穫高でみると2000万石前後から3000万石に増加、経済は高度成長したそうです。

しかし、その後の100年間、つまり1800年代始めまでは人口増も一休み、米の収穫高も3000万石から3700万石まで伸びたに過ぎなかったようです。

そしてそれから幕末までの約半世紀は、人口はなお停滞、米の収穫高は4000万石台に乘りましたが、経済成長は揺るやかだったということです。

明治以降、日本の人口は急速に増加します。明治5年、日本の総人口は3480万人でしたが、明治最終年の45年には5000万人を超えました。国の「富国強兵策」を支えたのは、人口増でした。その後、2度の世界大戦をはさんでの80年間で、人口は1億2000万人に。その間の日本の経済成長は、世界の奇跡と呼ばれています。

このように人口変遷史を見てきますと、人口はその国土、面積、資源力等見合った適正規模があると思いますが、しかし、やはり国の活力は、人口の増にあるように思います。この頃、外で遊ぶ子供の姿が見られなくなりましたが、テレビゲームや学習塾の所為だけではなさそうです。少子化の具体的な一現象です。

子供達の声があふれかえる国は、貧しくても、エネルギーがあると思いませんか？100年後、アメリカの人口は5、7億人（現在は2.8億人）に倍増すると予想されているそうです。一方、日本は半減して6000万人に。有史以来、人口構造的に、長期にわたって減少期が続くことは、日本にとって初めての経験です。少子化対策は国の緊要の課題です。